

景気動向指数の改善に関する調査研究 報告書 図表編

(1) 一致系列

① 輸出関連

■ 採用指標候補

	公表元	統計名	指標名		頁
図表1	内閣府		輸出数量指数	季調値	1
図表2	日銀	実質輸出入	実質輸出	季調値	2
図表3	財務省	貿易統計	輸出金額(名目)	季調値	3

■ 指標追加後のCI

	追加・入替指標			頁
図表4	輸出数量指数(財務省、季調は内閣府)			4
図表5	実質輸出(日銀)			5
図表6	輸出金額(名目)(財務省)			6

② 中小企業関連

■ 採用指標候補

	公表元	統計名	指標名		頁
図表7	日本政策金融公庫	中小企業景況調査	売上げDI	季調値	7
図表8	日本政策金融公庫	中小企業景況調査	利益額DI	季調値	8
図表9	日銀	短観	業況判断DI_中小企業 実績 製造業	原数値	9
図表10	日銀	短観	国内需給判断DI_中小企業 実績 製造業	原数値	10

■ 指標追加後のCI

	追加・入替指標			頁
図表11	中小企業売上げDI(日本政策金融公庫)			11
図表12	中小企業利益額DI(日本政策金融公庫)			12
図表13	短観・業況判断DI 中小企業 実績 製造業(日本銀行)			13

③雇用関連

■採用指標候補

	公表元	指標名		頁
図表14	内閣府	名目総雇用者所得(現金給与総額指数×非農林業雇用者数)		14
図表15	内閣府	実質総雇用者所得(現金給与総額指数×非農林業雇用者数)		15
図表16		名目総定期給与所得(定期給与指数×非農林業雇用者数)		16
図表17		実質総定期給与所得(実質定期給与指数×非農林業雇用者数)		17
図表18	厚労省	毎月勤労統計	労働投入量(常用雇用指数×総実労働時間指数)(調査産業計)	18
図表19	厚労省	毎月勤労統計	労働投入量(常用雇用指数×総実労働時間指数)(製造業)	19
図表20	厚労省	毎月勤労統計	所定外労働時間指数__製造業	20
図表21	厚労省	毎月勤労統計	総実労働時間指数__調査産業計	21
図表22	厚労省	毎月勤労統計	総実労働時間指数__製造業	22
図表23	厚労省	毎月勤労統計	所定外労働時間指数__卸売・小売業	23
図表24	厚労省	毎月勤労統計	所定外労働時間指数__医療・福祉	24
図表25	厚労省	毎月勤労統計	所定外労働時間指数__調査産業計 一般	25
図表26	厚労省	毎月勤労統計	所定外労働時間指数__調査産業計 パート	26
図表27	厚労省	毎月勤労統計	所定内労働時間指数__調査産業計	27
図表28	厚労省	毎月勤労統計	所定内労働時間指数__製造業	28
図表29	厚労省	毎月勤労統計	1日当たり所定内労働時間	29
図表30	厚労省	毎月勤労統計	1日当たり所定外労働時間	30
図表31	厚労省	毎月勤労統計	1日当たり総実労働時間	31
図表32	厚労省	毎月勤労統計	現金給与総額__調査産業計 名目	32
図表33	厚労省	毎月勤労統計	現金給与総額__調査産業計 実質	33
図表34	厚労省	毎月勤労統計	現金給与総額__製造業 実質	34
図表35	厚労省	毎月勤労統計	現金給与総額__調査産業計 名目 一般	35
図表36	厚労省	毎月勤労統計	現金給与総額__調査産業計 名目 パート	36
図表37	厚労省	毎月勤労統計	定期給与__調査産業計 名目	37
図表38	厚労省	毎月勤労統計	定期給与__調査産業計 実質	38
図表39	厚労省	毎月勤労統計	所定外給与__調査産業計 名目	39
図表40	厚労省	毎月勤労統計	所定外給与__製造業 名目	40
図表41	厚労省	毎月勤労統計	所定内給与__パート時間当たり 名目	41
図表42	総務省	労働力調査	雇用者数	42
図表43	総務省	労働力調査	就業者数	43
図表44	厚労省	職業安定業務統計	有効求人倍率(除くパート)	44
図表45	厚労省	職業安定業務統計	有効求人倍率(パート)	45
図表46	厚労省	職業安定業務統計	有効求人倍率(正社員)	46
図表47	厚労省	職業安定業務統計	有効求人倍率(除く介護・建設)	47
図表48	厚労省	職業安定業務統計	有効求人倍率(常用(含むパート)) 生産工程	48
図表49	厚労省	職業安定業務統計	有効求人倍率(常用(含むパート)) 運搬	49
図表50	厚労省	職業安定業務統計	有効求人数(含むパート)	50

■指標追加後のCI

	追加・入替指標		頁
図表51	名目総雇用者所得(現金給与総額指数×非農林業雇用者数)		51
図表52	実質総雇用者所得(現金給与総額指数×非農林業雇用者数)		52
図表53	名目総定期給与所得(定期給与指数×非農林業雇用者数)		53
図表54	実質総定期給与所得(実質定期給与指数×非農林業雇用者数)		54

(2) 先行系列

① 海外経済関連

■ 採用指標候補

	公表元	統計名	指標名	頁
図表55	ISM	PMI	米国・ISM景況指数(製造業)	季調値 55
図表56	OECD	CLI	CLI(OECD Area)	季調値 56
図表57	OECD	CLI	CLI(米国)	季調値 57
図表58	OECD	CLI	CLI(EU)	季調値 58
図表59	OECD	CLI	CLI(中国)	季調値 59
図表60	Markit社	PMI	Markit社 PMI US(製造業)	季調値 60
図表61	Markit社	PMI	Markit社 PMI US(サービス業)	季調値 61
図表62	Markit社	PMI	Markit社 PMI 中国(製造業)	季調値 62
図表63	Markit社	PMI	Markit社 PMI 中国(サービス業)	季調値 63
図表64	Markit社	PMI	Markit社 PMI グローバル(製造業)	季調値 64
図表65	Markit社	PMI	Markit社 PMI グローバル(サービス業)	季調値 65
図表66		世界不確実性指数 Economic Policy Uncertainty	名目GDPウェイト	原数値 66
図表67		世界不確実性指数 Economic Policy Uncertainty	PPP調整GDPウェイト	原数値 67

② サーベイ調査関連

■ 採用指標候補

	公表元	統計名	指標名	頁
図表68	内閣府	景気ウォッチャー調査	現状判断DI	季調値 68
図表69	内閣府	景気ウォッチャー調査	先行き判断DI	季調値 69
図表70	内閣府	景気ウォッチャー調査	現状判断DI・家計動向関連	季調値 70
図表71	内閣府	景気ウォッチャー調査	現状判断DI・企業動向関連	季調値 71
図表72	内閣府	景気ウォッチャー調査	現状判断DI・雇用関連	季調値 72
図表73	内閣府	景気ウォッチャー調査	先行き判断DI・家計動向関連	季調値 73
図表74	内閣府	景気ウォッチャー調査	先行き判断DI・企業動向関連	季調値 74
図表75	内閣府	景気ウォッチャー調査	先行き判断DI・雇用関連	季調値 75
図表76	ロイター	ロイター短観	ロイター短観(製造業DI)	原数値 76
図表77	ロイター	ロイター短観	ロイター短観(非製造業DI)	原数値 77
図表78	日経	PMI	日本__製造業	季調値 78
図表79	日経	PMI	日本__サービス業	季調値 79

③ ボラティリティ関連

■ 採用指標候補

	公表元	統計名	指標名	頁
図表80	大阪大学		Volatility Index Japan(逆サイクル)	原数値 80
図表81	日本経済新聞社		日経平均ボラティリティ・インデックス(逆サイクル)	原数値 81
図表82	シカゴ・オプション取引所		米国・VIX指数(逆サイクル)	原数値 82
図表83	先行系列	採用候補指標	グレンジャー因果性検定結果	83
図表84	各ボラティリティ関連指標の概要			84

(注) 季調値の欄が斜体の指標は独自季節調整値。

輸出数量指数

図1 Bry-Boschan法による山谷

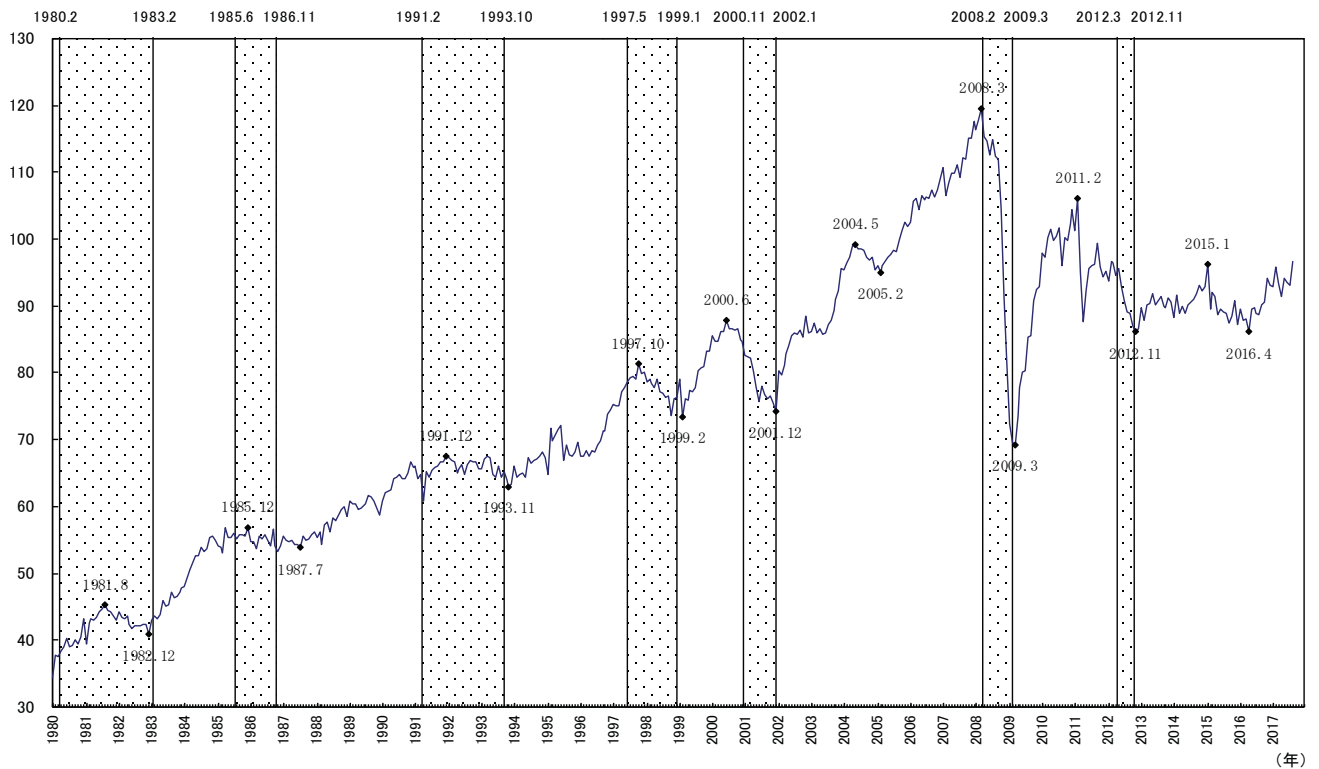


図2 パターン分析

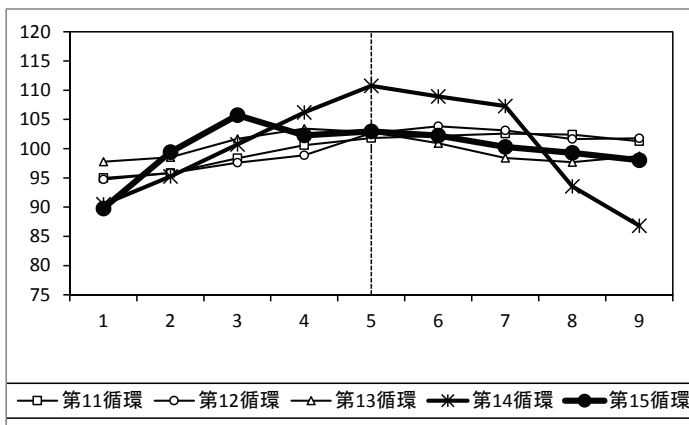


図3 時差相関

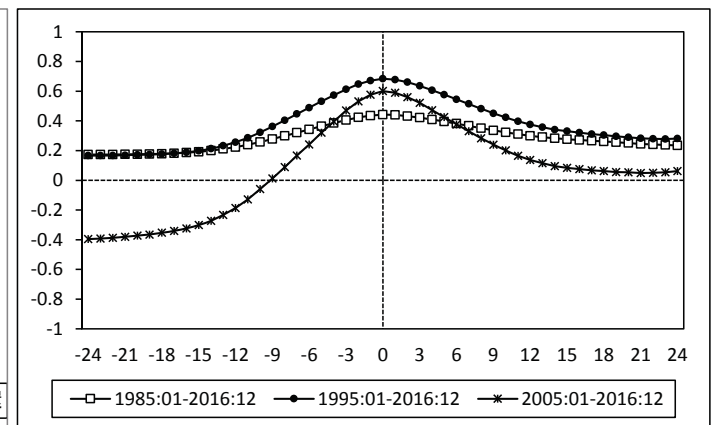


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:0	第10~15循環:+1 第12~15循環:+1	3
	1995-2016:0		
	2005-2016:0		

実質輸出

図1 Bry-Boschan法による山谷

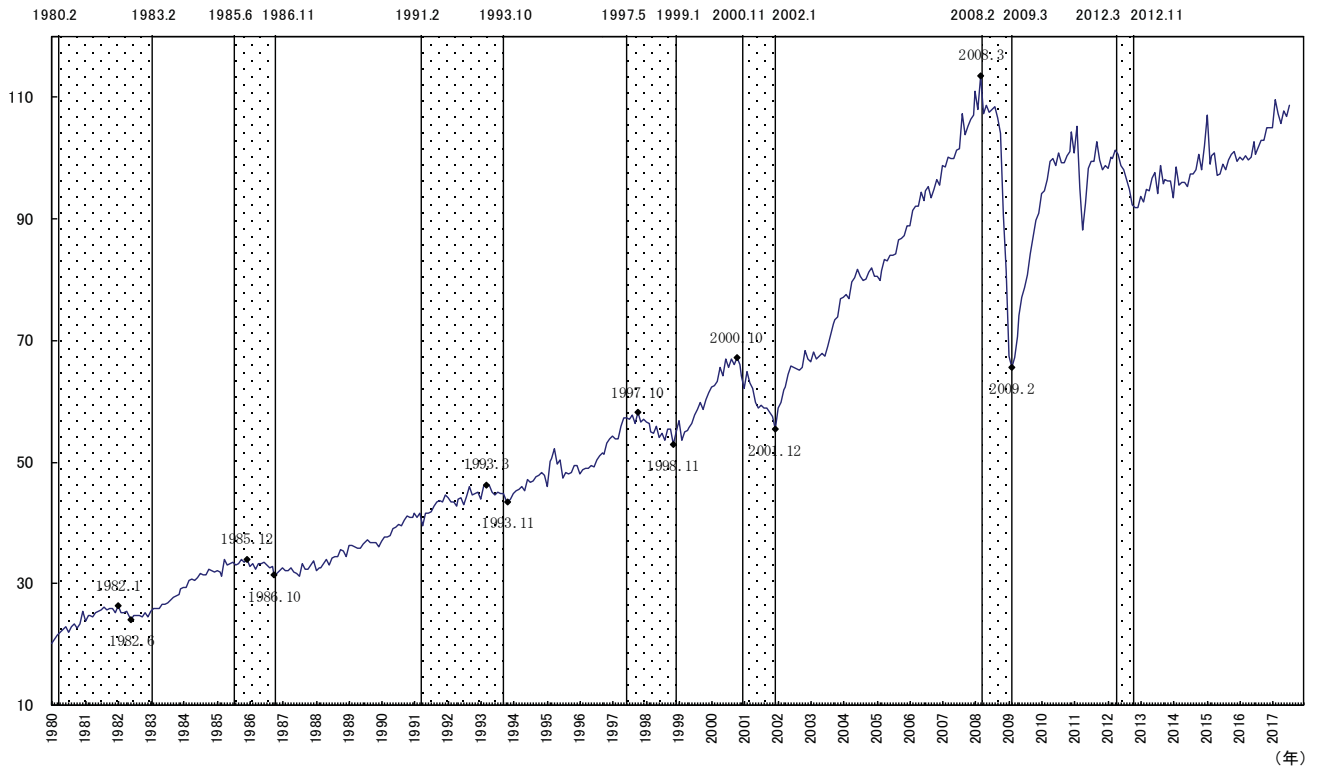


図2 パターン分析

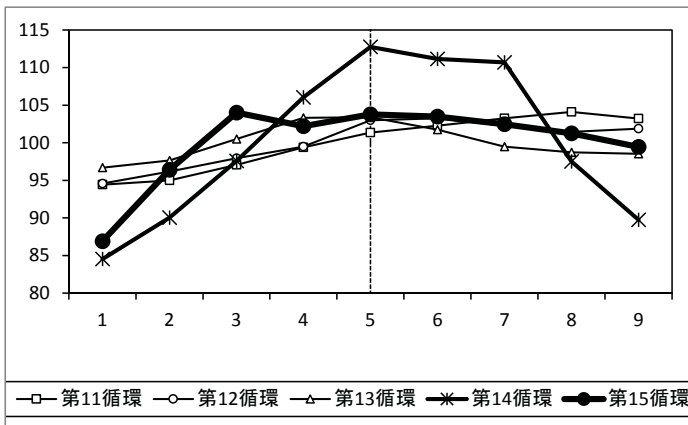


図3 時差相関

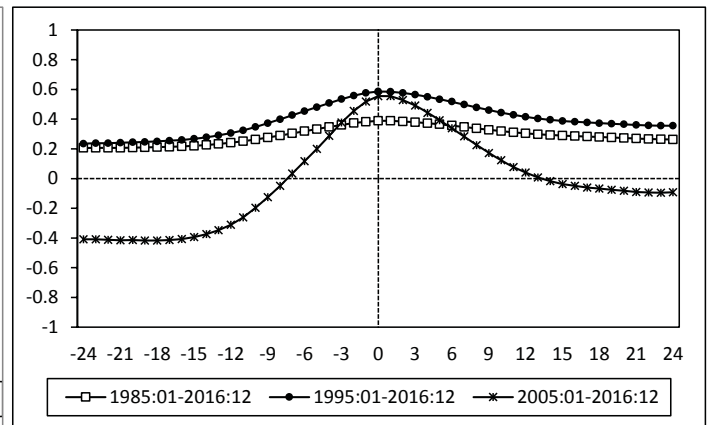


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:0	第10~15循環:-1 第12~15循環:-1	3
	1995-2016:0		
	2005-2016:0		

輸出金額(億円)

図1 Bry-Boschan法による山谷

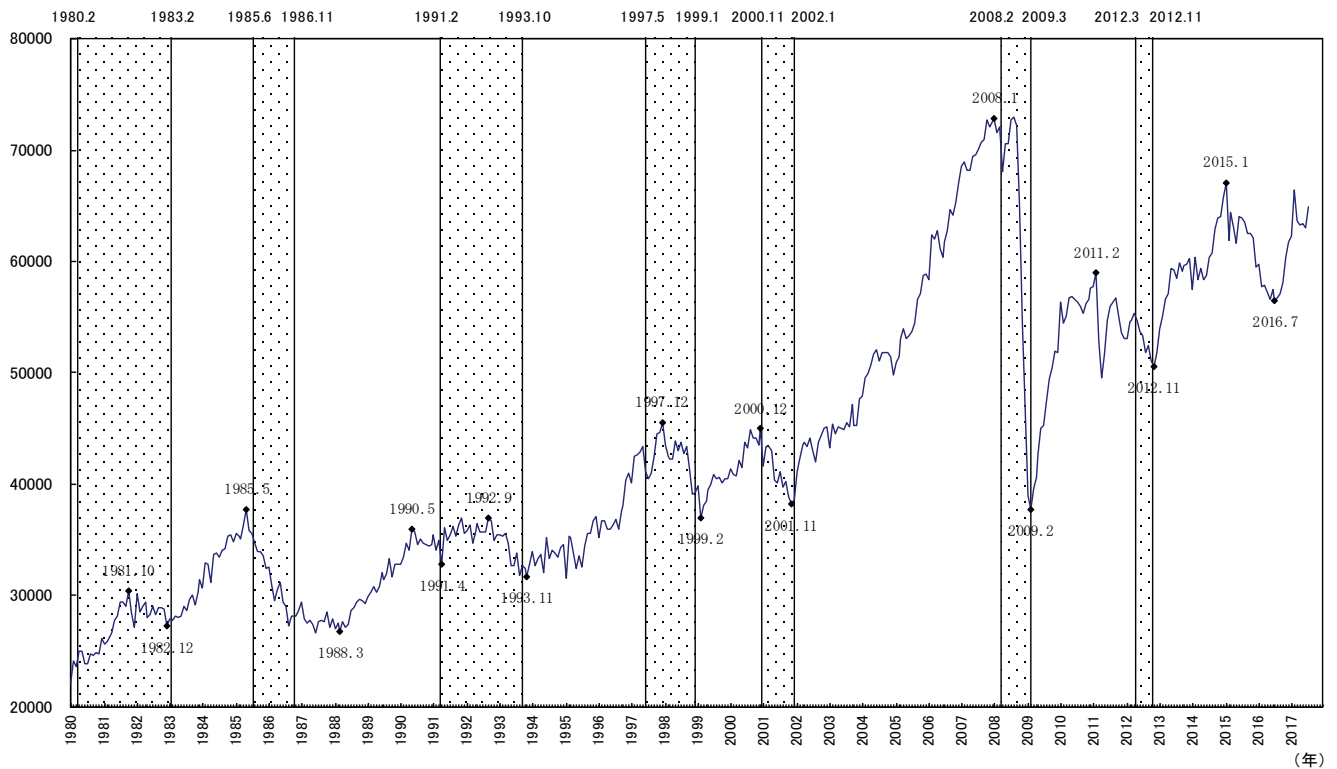


図2 パターン分析

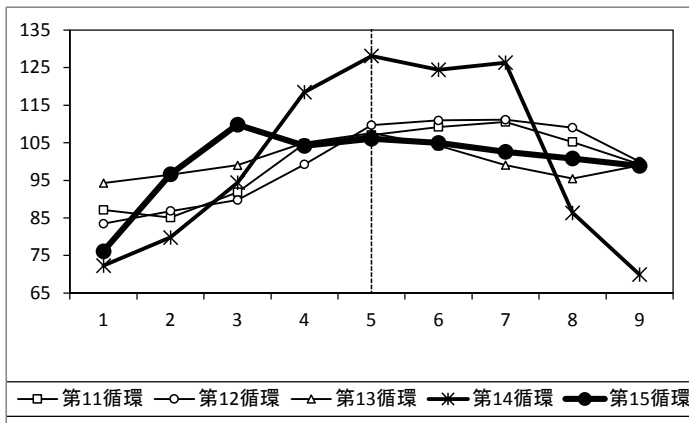


図3 時差相関

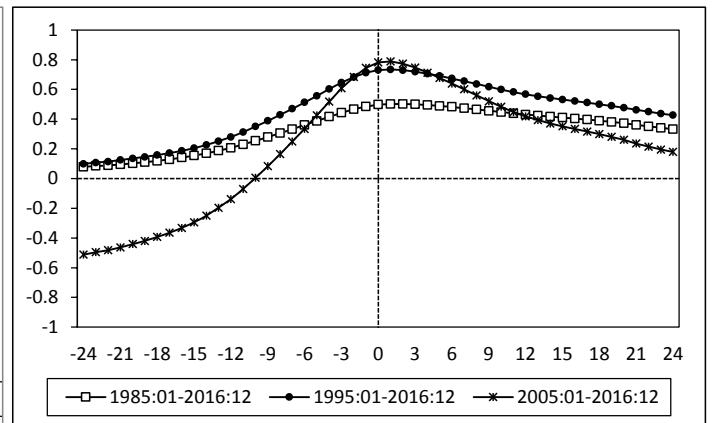


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:+2 1995-2016:+1 2005-2016:+1	第10~15循環:+1 第12~15循環:0	3

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

現行	入替後
現行	輸出数量(貿易統計、季節調整値)追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

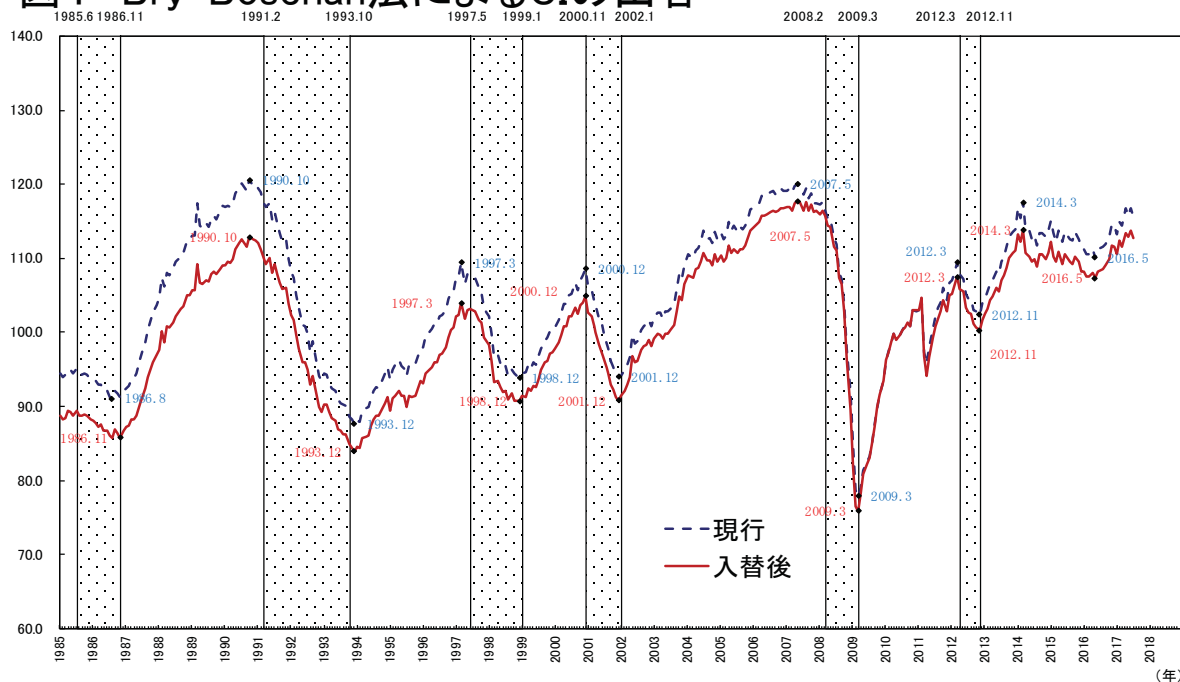


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	5
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	7
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	0
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	11
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.8		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1993.12	2	2	1	1
1999.1	1998.12	1998.12	-1	-1	1	2
2002.1	2001.12	2001.12	-1	-1	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	0.0		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

現行	入替後
現行	実質輸出(日銀、季節調整値)追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

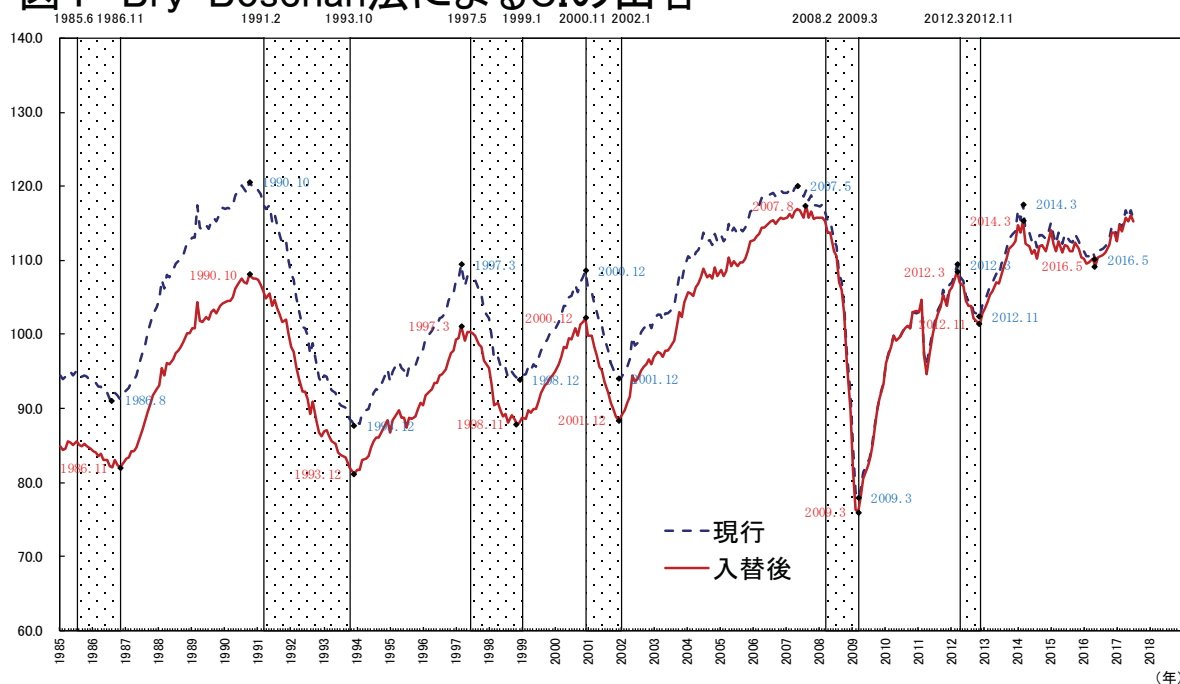


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	5
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	8
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	0
2008.2	2007.5	2007.8	-9	-6	13	10
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.2		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1993.12	2	2	1	1
1999.1	1998.12	1998.11	-1	-2	1	3
2002.1	2001.12	2001.12	-1	-1	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	-0.2		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

現行	入替後
現行	輸出金額(貿易統計、季節調整値)追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

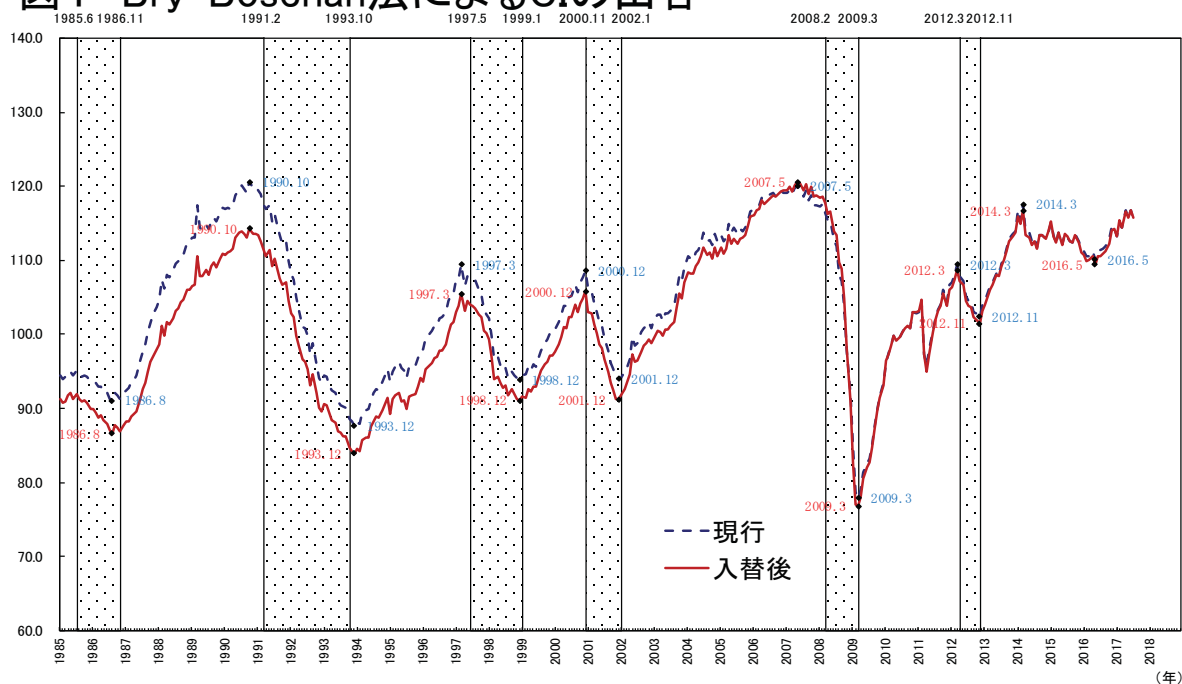


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	4
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	7
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	0
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	11
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.8		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1993.12	2	2	1	1
1999.1	1998.12	1998.12	-1	-1	1	1
2002.1	2001.12	2001.12	-1	-1	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	0.0		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。

日本政策金融公庫_売上げDI(100加算)

図1 Bry-Boschan法による山谷

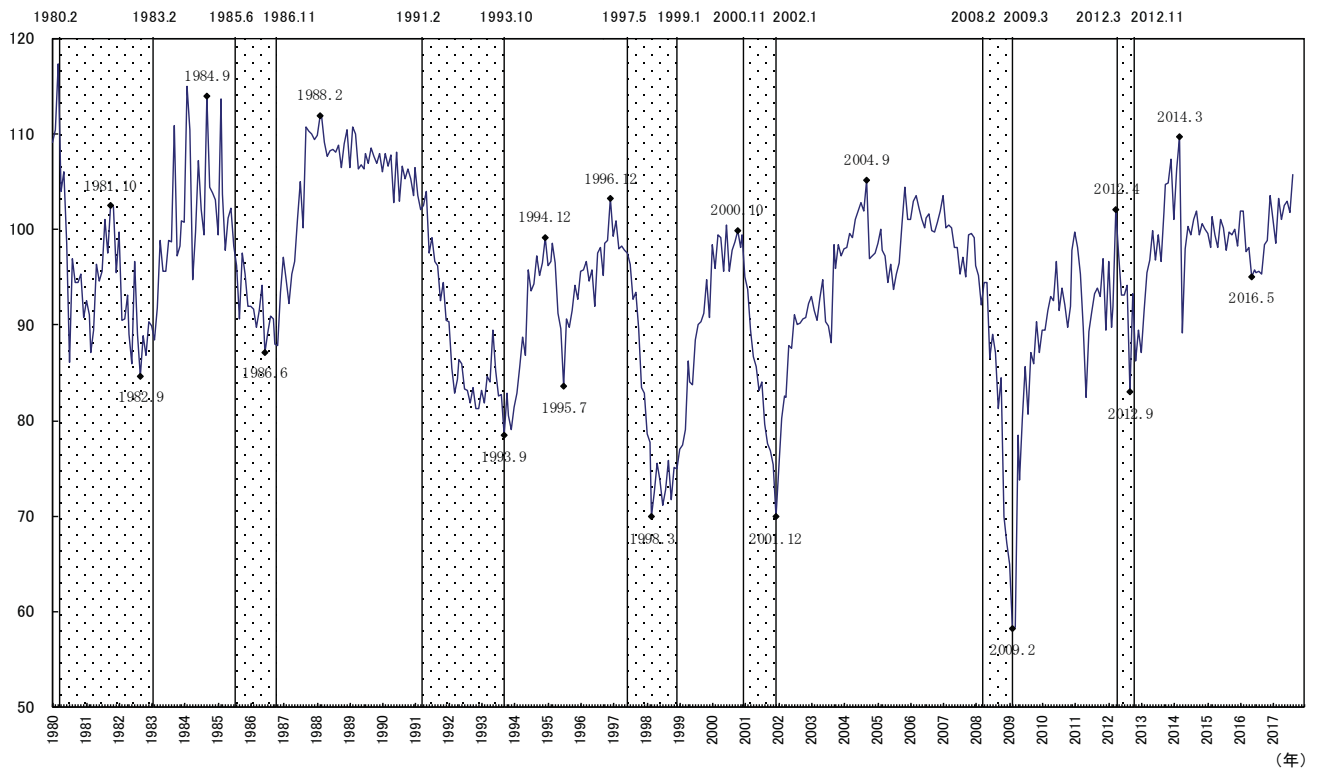


図2 パターン分析

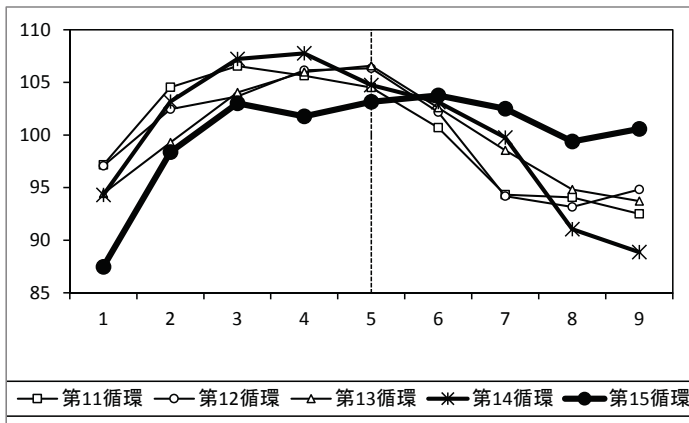


図3 時差相関

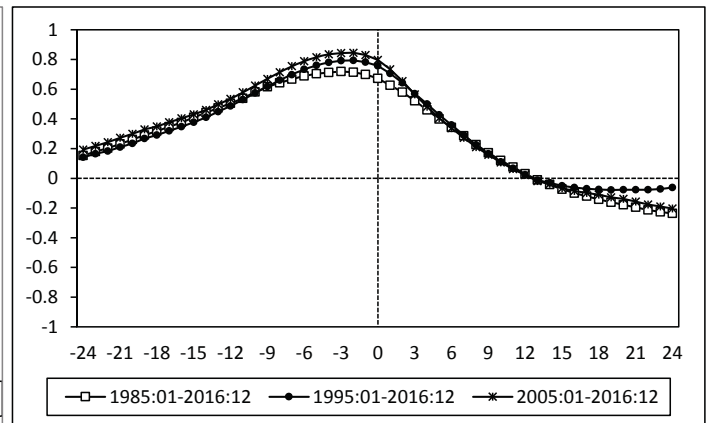


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:-3 1995-2016:-2 2005-2016:-2	第10~15循環:+1 第12~15循環:+1	3

日本政策金融公庫_利益額DI(100加算)

図1 Bry-Boschan法による山谷

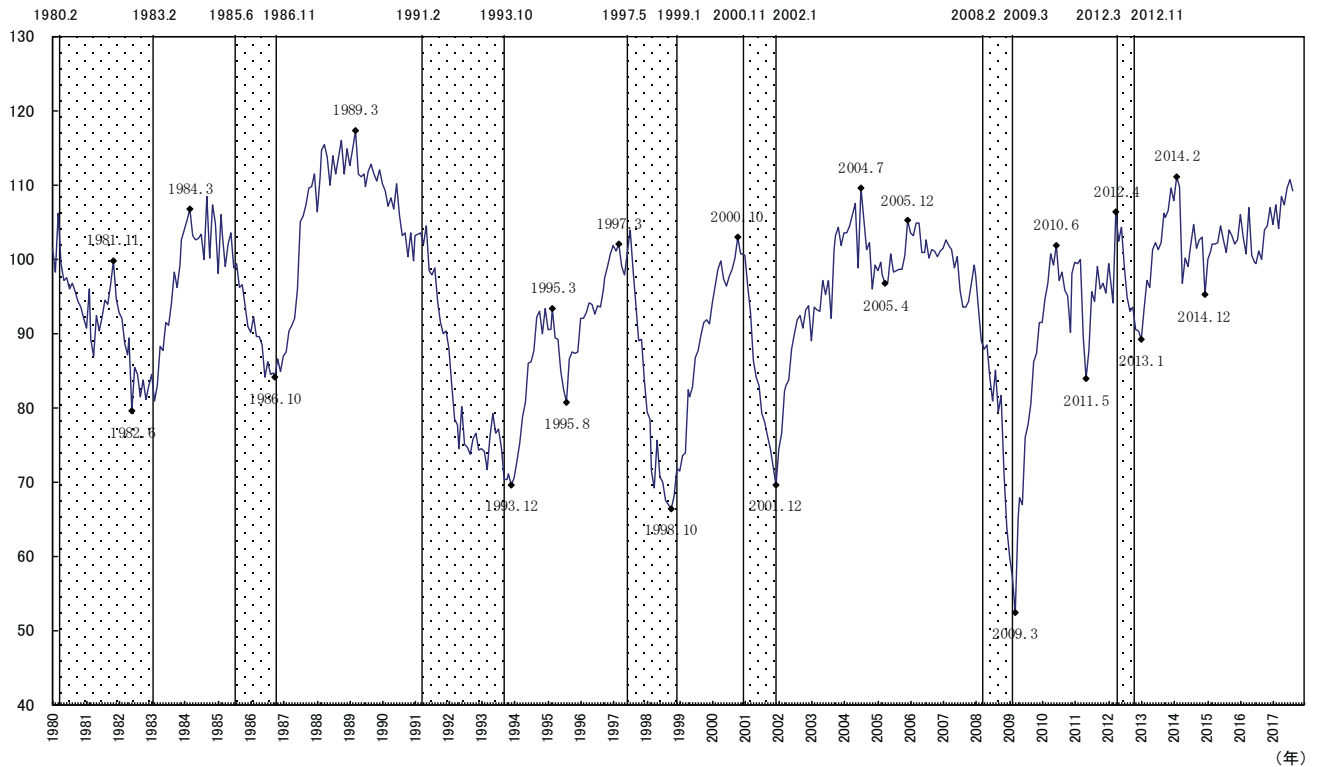


図2 パターン分析

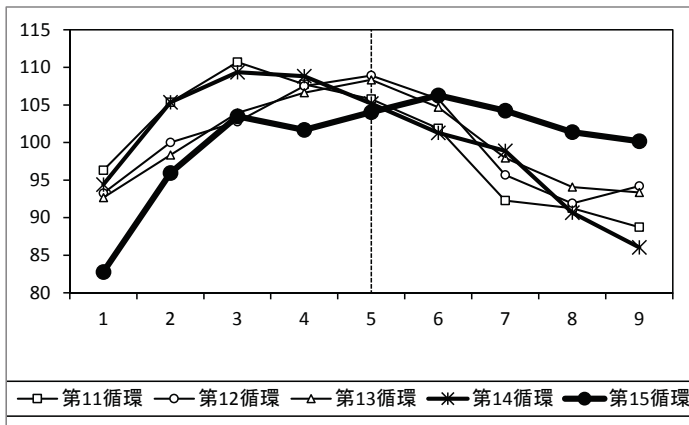


図3 時差相関

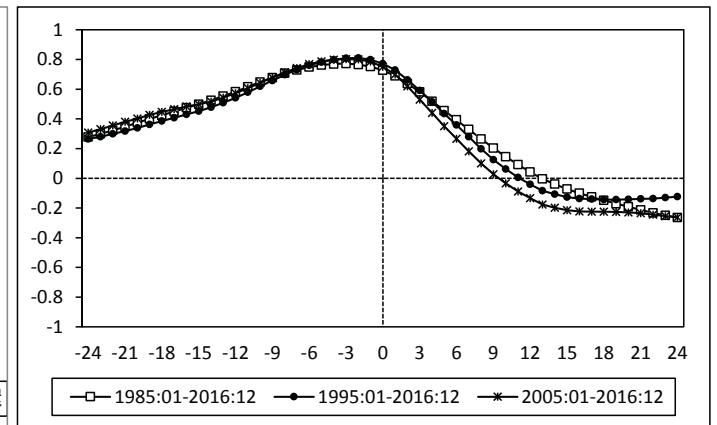


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:-3 1995-2016:-2 2005-2016:-3	第10~15循環:+3 第12~15循環:+3	2

日銀短観・業況判断DI・中小製造業_実績(原・100加算)

図1 Bry-Boschan法による山谷

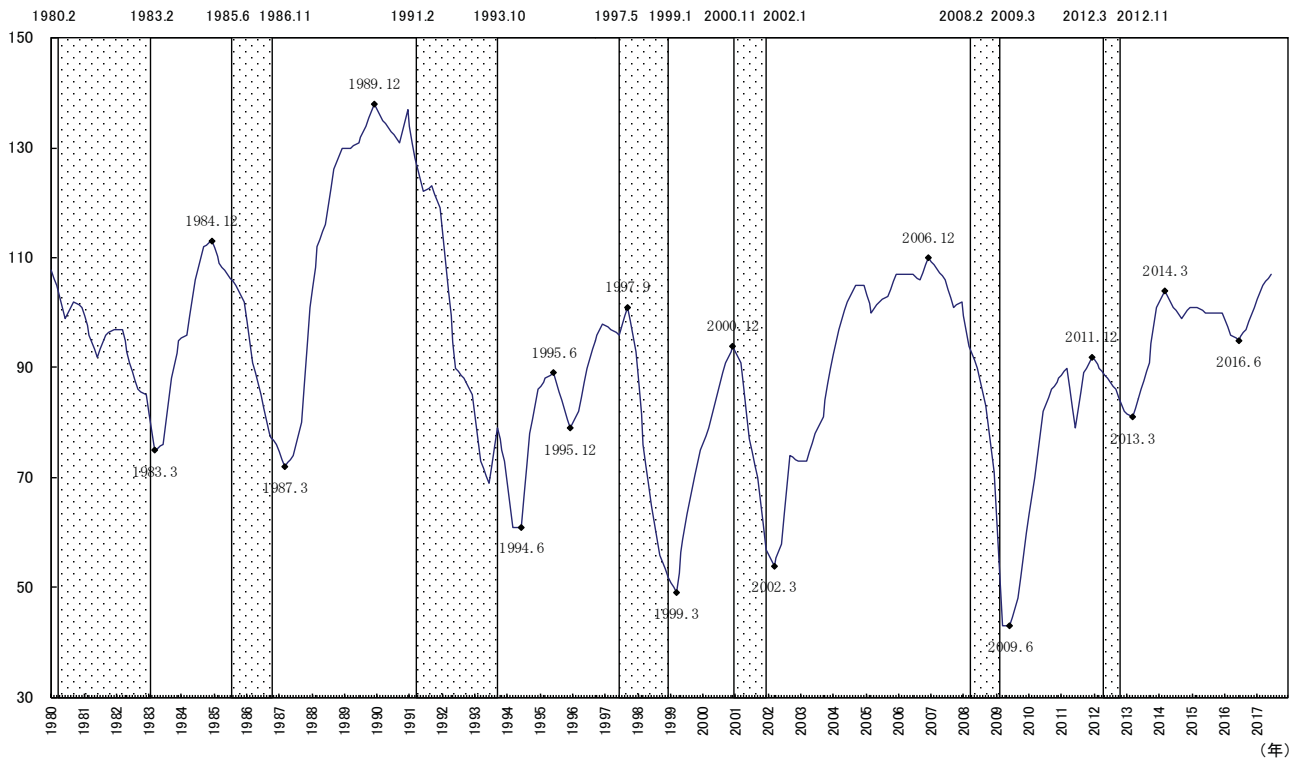


図2 パターン分析

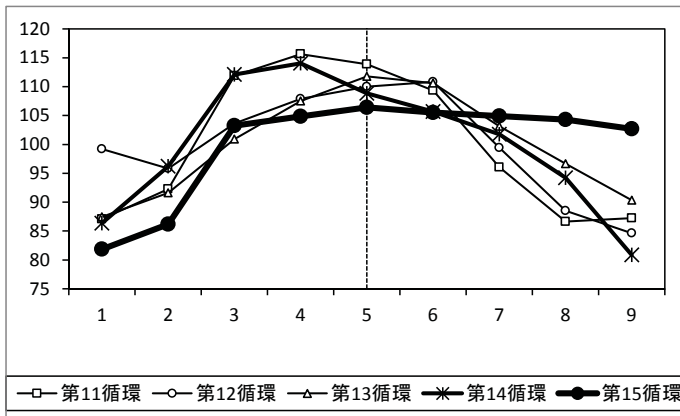


図3 時差相関

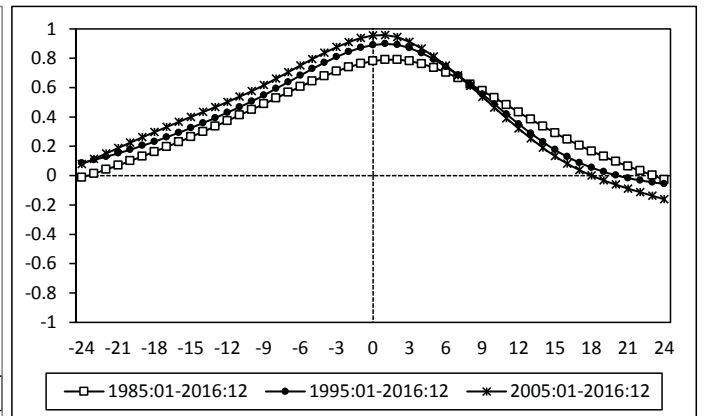


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:+1 1995-2016:+1 2005-2016:+1	第10~15循環:+1 第12~15循環:+1	1

日銀短観・国内需給_中小製造業_実績(原・100加算)

図1 Bry-Boschan法による山谷

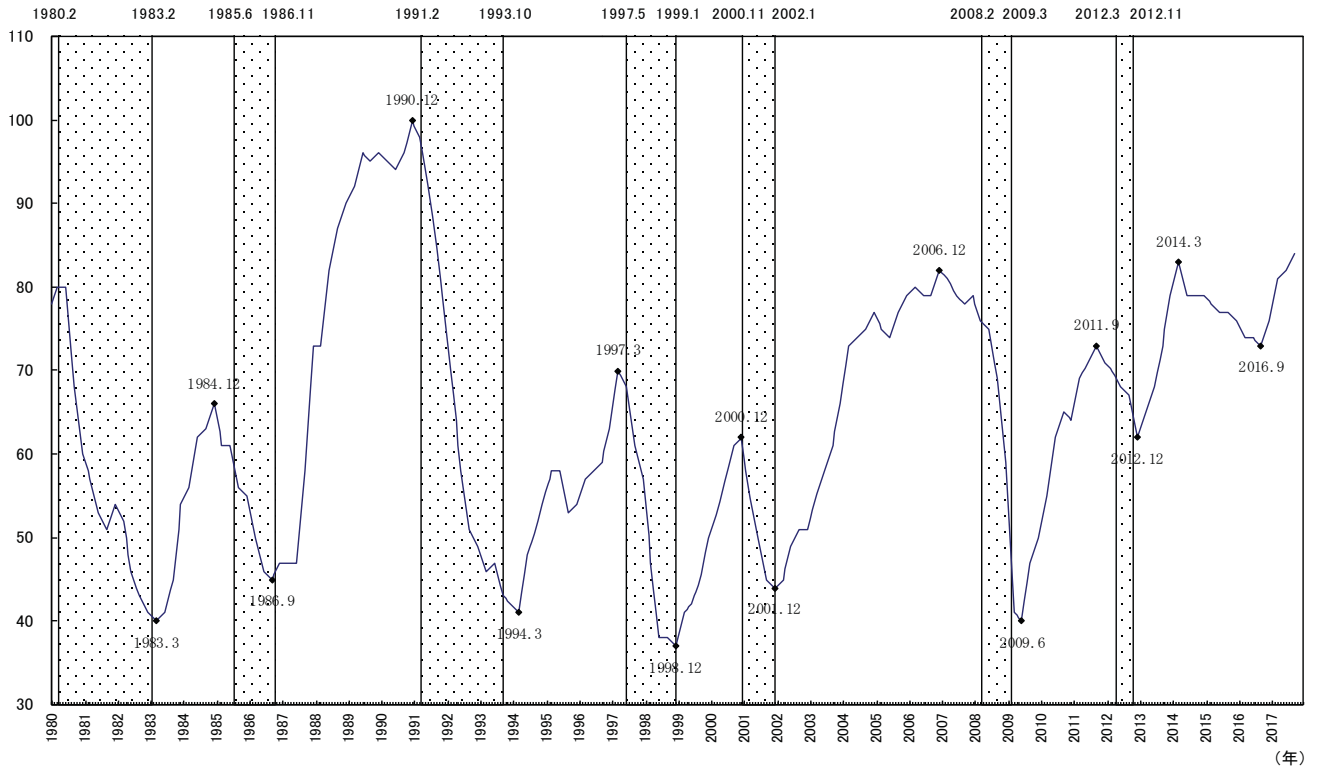


図2 パターン分析

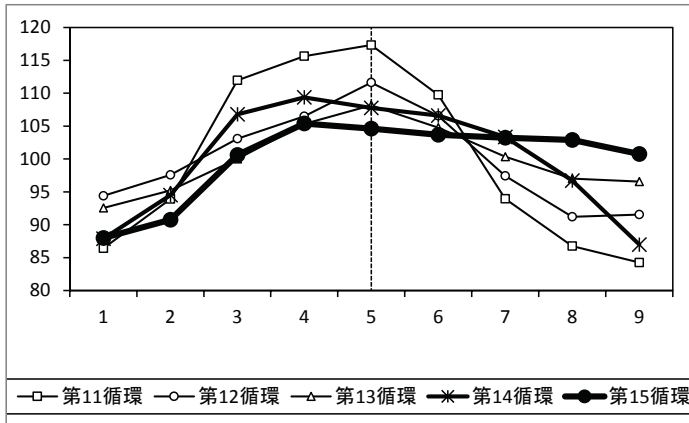


図3 時差相関

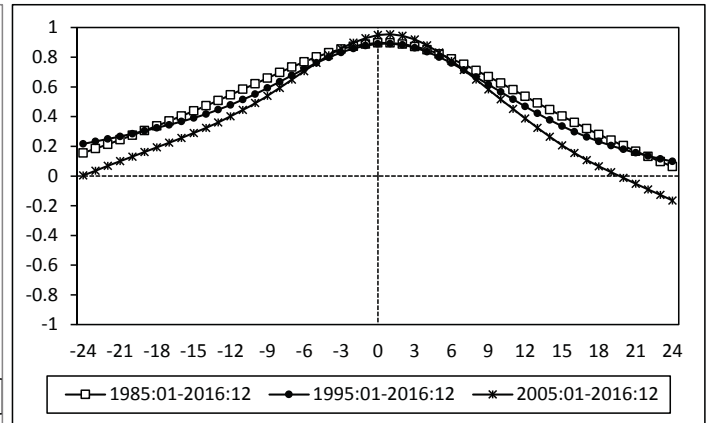


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:+1 1995-2016:+1 2005-2016:+1	第10~15循環:0 第12~15循環:0	1

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

現行	入替後
現行	売上げDI(日本政策金融公庫・中小企業景況調査、季節調整値)追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

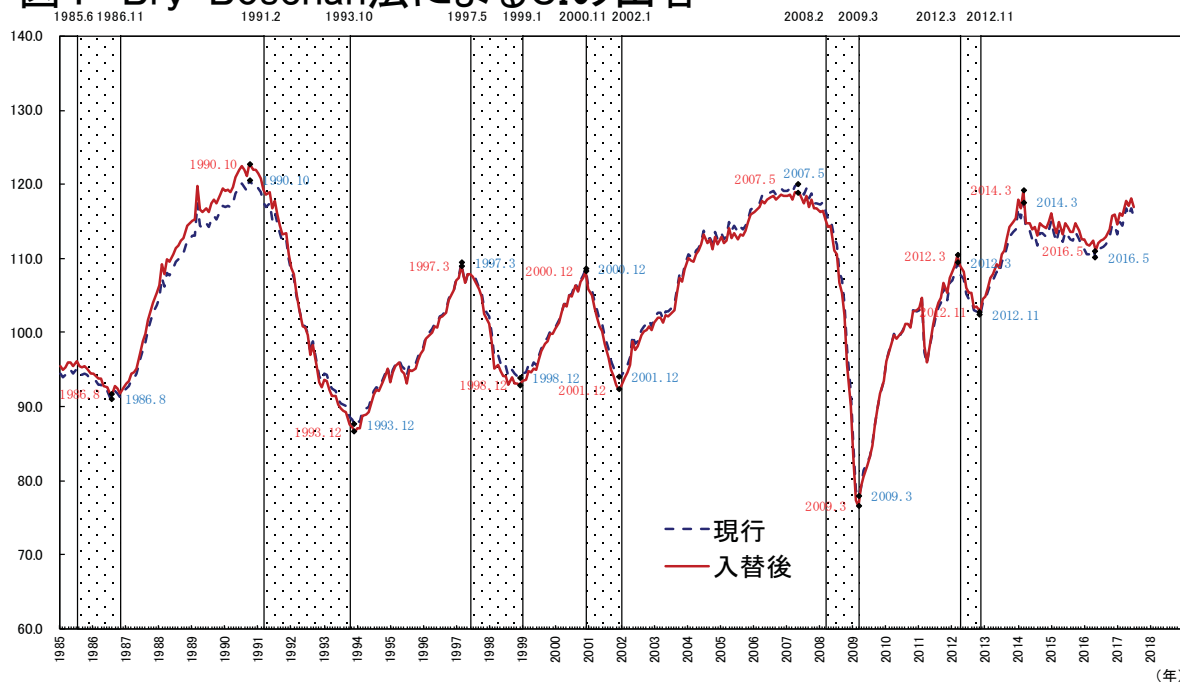


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	6
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	6
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	0
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	14
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.8		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1993.12	2	2	1	1
1999.1	1998.12	1998.12	-1	-1	1	3
2002.1	2001.12	2001.12	-1	-1	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	0.0		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

現行	入替後
現行	利益額DI(日本政策金融公庫・中小企業景況調査、季節調整値)追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

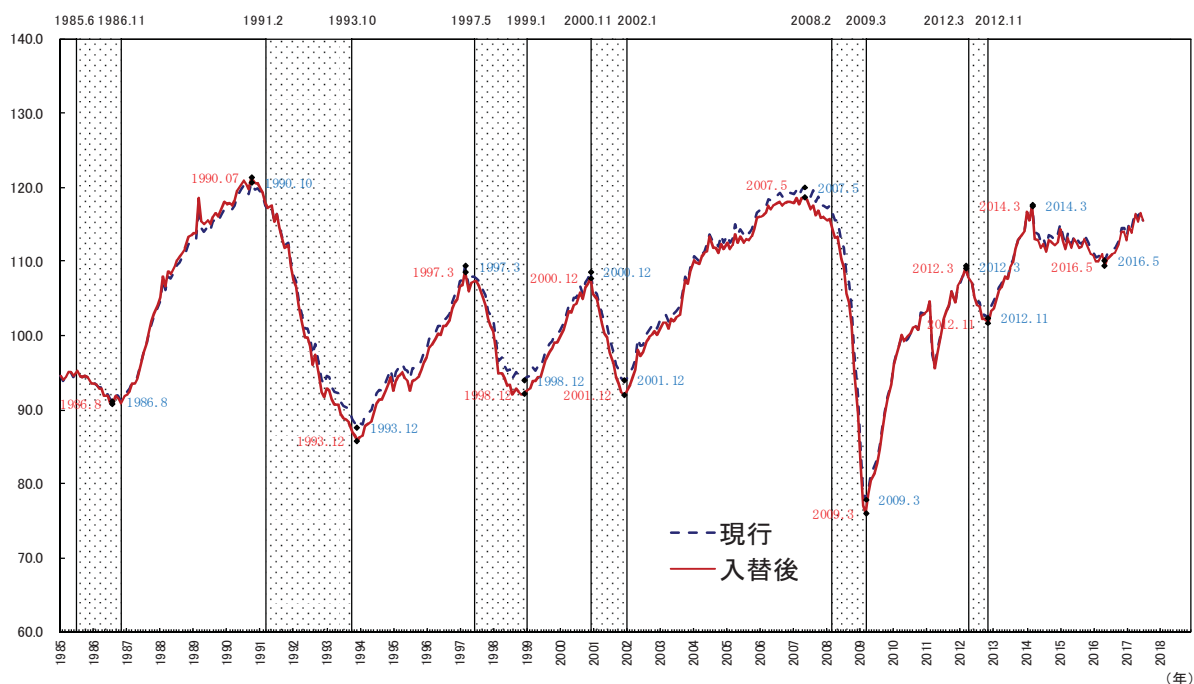


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.7	-4	-7	6	8
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	9
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	0
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	14
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-3.4		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1993.12	2	2	1	0
1999.1	1998.12	1998.12	-1	-2	1	2
2002.1	2001.12	2001.12	-1	-1	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	-0.2		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

現行	入替後
現行	日銀短観・業況判断DI・中小企業(実績、製造業)追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

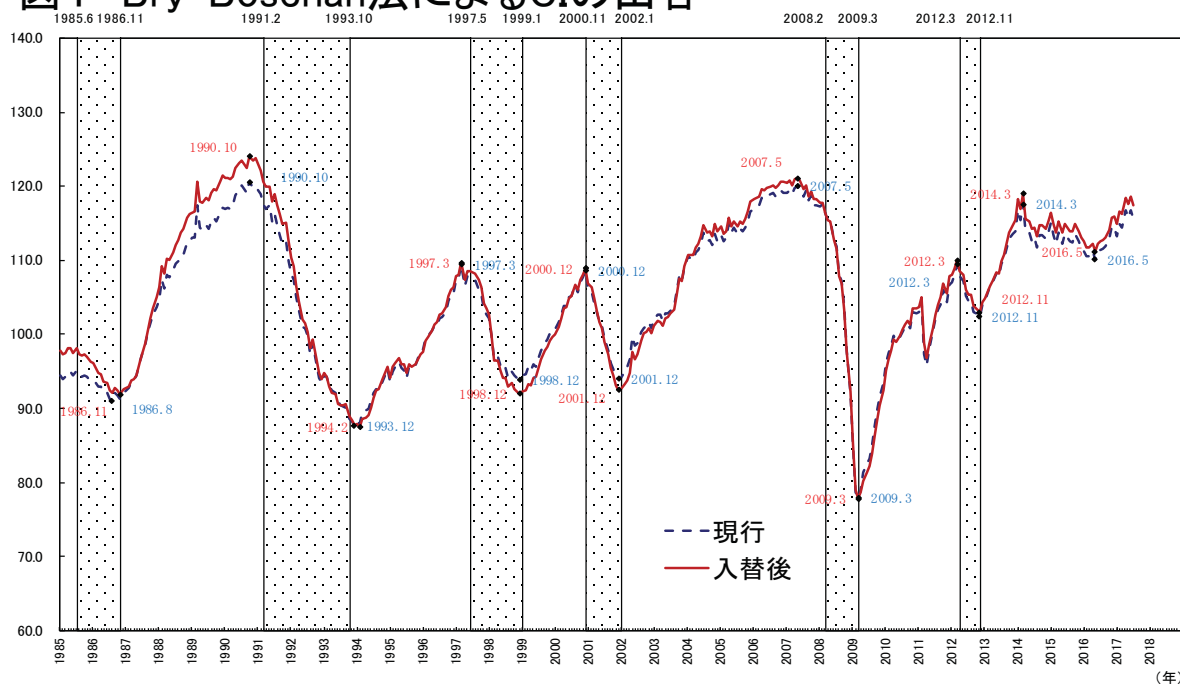


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	6
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	8
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	0
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	15
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.8		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1994.2	2	4	1	0
1999.1	1998.12	1998.12	-1	-1	1	1
2002.1	2001.12	2001.12	-1	-1	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	0.4		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。